



ヤシキリン通信

まちを楽しむ・みどりを楽しむ
—下保谷旧高橋家から考える学びと暮らし—

- 2023・第3号topic—
- ・令和4年度季節イベントと一般開放
 - ・下保谷四丁目特別緑地保全地区公式HP開設
 - ・屋敷林はグリーンインフラ
 - ・ヤシキリンのひみつを大解剖

令和4年度より、地域の方々に屋敷林の自然や歴史に触れていただくため、月2回程度の一般開放が始まりました。来場者アンケートでは、「初めて入りました」「散策できて気持ちよかったです」「いったい感想のほか、「土日の開放日を増やしてほしい」といった要望もいただきました。これからも屋敷林の自然を守りながら、地域に開かれた場所となるよう工夫してまいります。

また、これまでは桜の時期と紅葉の時期の年2回実施されていたイベントも、令和4年度からは、季節ごとに年4回実施されるようになりました。

今後のイベントや一般開放のお知らせは、西東京市ホームページや市報のほか、本地区の掲示板や、下保谷四丁目特別緑地保全地区のホームページから行います。ぜひチェックしてみてください。

ヤシキリン通信 第3号
企画：旧高橋家屋敷林保全活用プロジェクト
発行：2023年3月 / 西東京市みどり公園課

『ヤシキリン通信』は、市民・専門家・行政らが協働し、下保谷四丁目特別緑地保全地区の活動を通して屋敷林と地域の魅力を発見し、その成果を発信するフリーペーパーです。

今すぐチェック!

<https://sites.google.com/view/yashikiran>

下保谷四丁目特別緑地保全地区のホームページができました！

下保谷四丁目特別緑地保全地区のホームページができました。

一般開放やイベントのスケジュールのご案内や、屋敷林で見られる植物について掲載しています。

ヤシキリンのひみつを大解剖!



グリーンインフラとしての屋敷林の機能について、微気候と雨水の貯留・浸透の観点から観測を行いました。

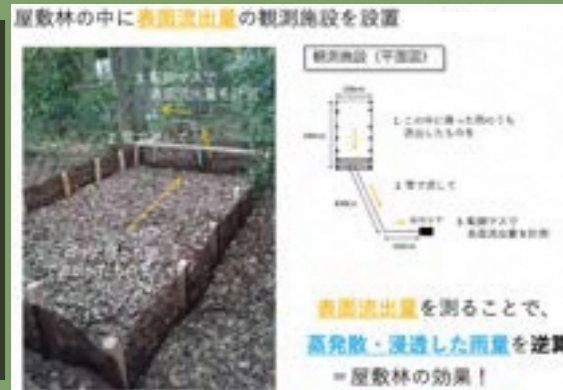
観測① 微気候 ～「クールスポット」としての屋敷林～



屋敷林の中(前庭ゾーン)と、建物内、近隣農地、近隣駐車場に温湿度計を設置しました。観測期間は2019年8月1日～10月31日までです。温湿度計では、10秒ごとに気温と湿度を計測しました。

観測② 雨水の貯留・浸透 ～「緑のダム」としての屋敷林～

屋敷林による雨水の貯留・浸透効果(蒸発散を含む)を調べるため屋敷林の中に雨水の表面流出量の観測装置を設置しました。表面流出量の観測には転倒マスという装置を使っています。



調査・執筆担当者

東京大学 都市工学専攻 主幹研究員 飯田 晶子
 東京都出身。武蔵野の面影を残した東京郊外で育つ。緑地計画学や都市生態学が専門。都市における緑地の機能、および人と緑地・自然との関わりについて研究を実施中。



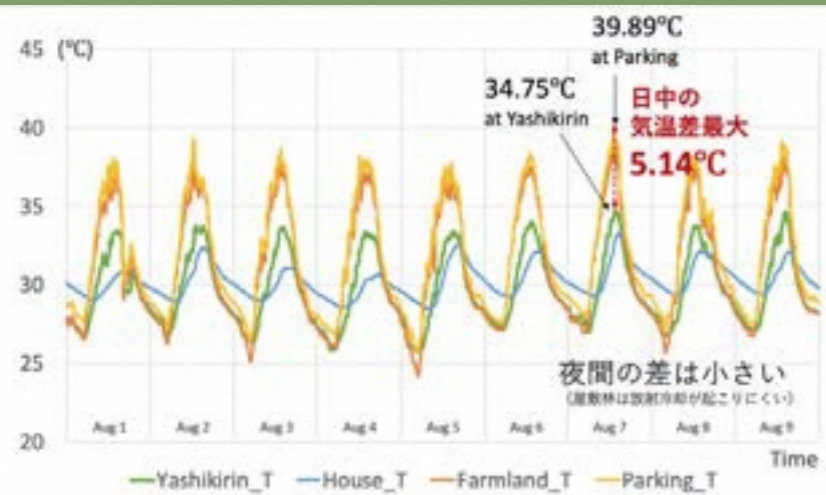
屋敷林は「グリーンインフラ」

「グリーンインフラ」とは、自然の働きを積極的に活用し、持続可能な社会を作ろうという考え方です。屋敷林は、そのさまざまな効用から「グリーンインフラ」と言えることができそうです。

観測① 微気候 ～「クールスポット」としての屋敷林～

観測結果⇒日中の最高気温差を最大 5.1 度下げる効果

観測の結果、2019年8月で最も気温が高かった8月7日において、屋敷林は、近隣駐車場よりも日中の最高気温が最大で 5.1 度低いことがわかりました。まさに「クールスポット」として屋敷林が機能していることがわかります。



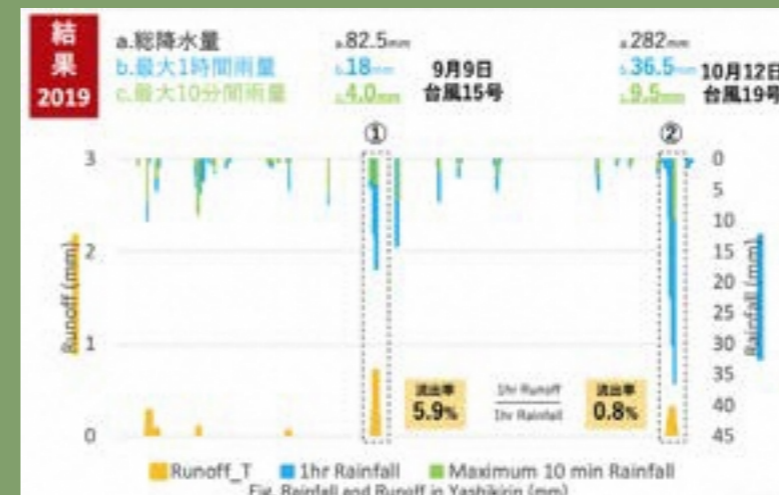
なぜ?

これは、植物の蒸散作用(植物が水蒸気を放出する現象)による気温の上昇抑制のほか、屋敷林の幾重にも重なる樹冠が夏の日差しを遮るためと考えられます。これにより、屋敷林の中は、夏でも気持ちの良い環境が保たれています。

観測② 雨水の貯留・浸透 ～「緑のダム」としての屋敷林～

観測結果⇒大型台風でも 90% 以上の雨水を貯留・浸透

2019年には大型台風が2度襲来しました。9月の台風15号(総雨量82.5mm)と、10月の台風19号(総雨量282mm)です。屋敷林はそのような大型台風の時にも高い貯留・浸透効果、すなわち「緑のダム」としての効果があることがわかりました。



なぜ?

1時間あたりの最大流出率は、台風15と台風19号が来た際も、10%以下でした。つまり、台風の総雨量のうち、約9割を屋敷林の中で貯留・浸透させたこととなります。その要因は雨を樹冠が受け止め、雨水の落下速度を緩やかにしたり、豊富な落ち葉が雨水を吸収したりしてくれるためと考えられています。これは、流域全体での洪水緩和に繋がっています。